

平成24年5月7日

Educational Evolution

佐賀から始まる新たな教育改革
先進的ICT利活用推進事業

1 なぜ今、ICT利活用教育の推進か。

1

<事業推進の背景>

- 情報機器の整備・普及に伴い、教育の情報化は必至(情報化社会への対応)
- 学力の国際比較において情報教育先進国(韓国、シンガポール等)との格差が拡大
- 通常の学校や教室外でも質の高い教育の確保を求める要望が拡大
 - ・新型インフルエンザ発生時の対応
 - ・地震や風水害などの自然災害発生時の対応
 - ・不登校や特別支援教育対象者への対応

<期待される効果>

① 教育の質の向上

- ・子どもが変わる(学びの質の向上)
- ・授業が変わる(教師の指導の質の向上)
- ・学校が変わる(学校運営の改善、事務負担の軽減)

② 新たな教育情報システムによる教育情報の一括管理と遠隔学習等により

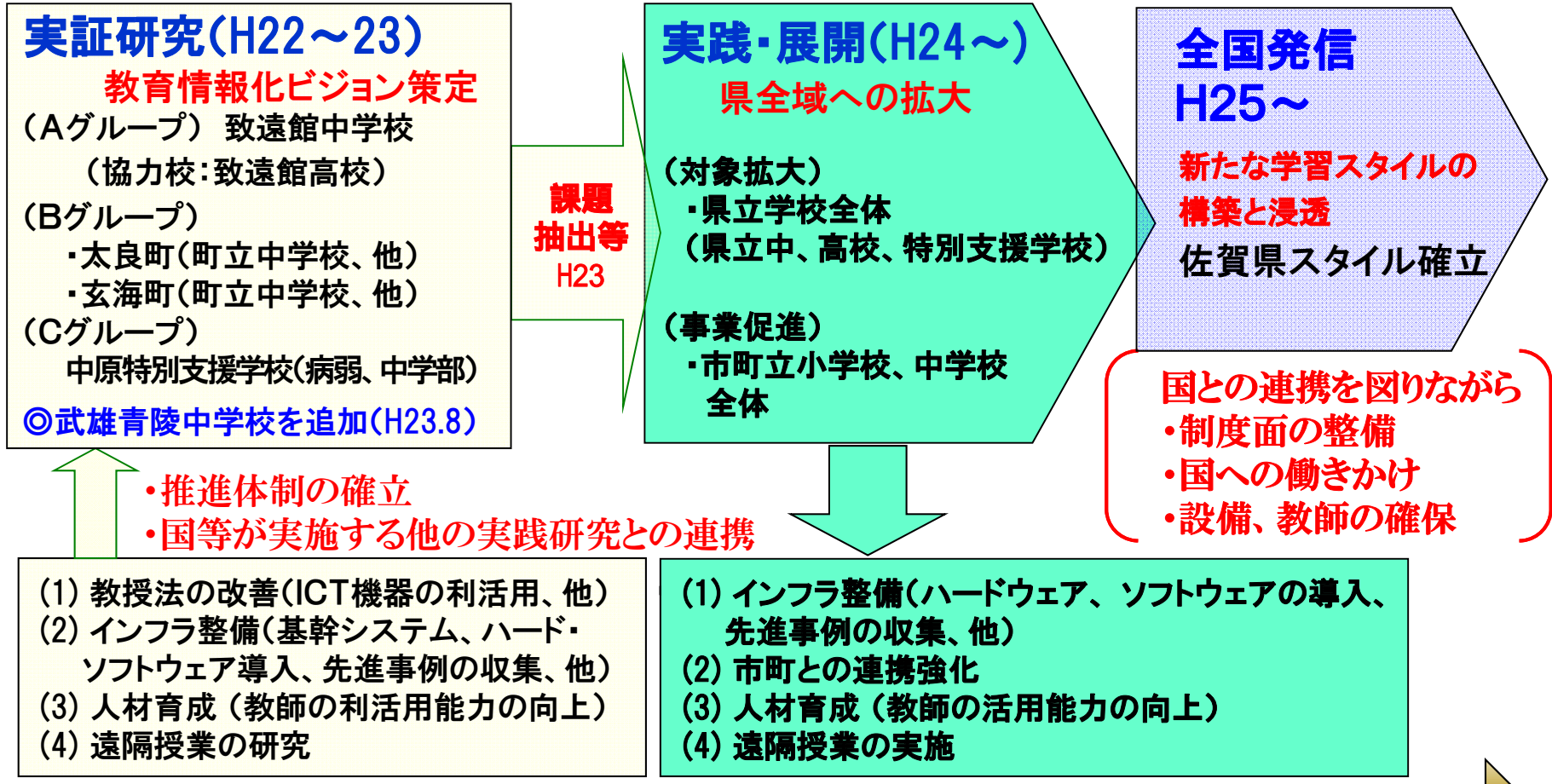
いつでもどこでも良質な学習機会の提供

- ・自然災害発生時等、物理的な事由による学習空白の克服
- ・病気等、個人レベルでの事由による学習空白の解消
- ・保護者や地域との連携強化
- ・経済格差や地域差の克服



<<事業目的>> 児童生徒の学力向上、教育の質の向上

2 事業推進のロードマップ



事業推進の人材確保(※外部支援から独自の組織体制構築へ)が急務 !!

国の動き

- フューチャースクール事業(実証研究(小:H22~、中・特支:H23~)、H32までに全国展開)
- 学習指導要領の改訂(小:23年度、中:24年度、高:25年度~)
- デジタル教科書の整備方針:小学校(H23~)、中学校(H24~)
→モデル事業による実証研究(H23~25)

[佐賀県総合計画に示す推進スケジュール]

今より明日を必ず良くするための“進”重点項目

具体的取組	H23	H24	H25	H26
事業推進体制の構築 (ICT利活用教育推進チーム等)	推進体制の整備・支援 (H23.6)			
人材育成 (教職員研修、普及・啓発)	全公立学校教職員研修、推進リーダー研修 第Ⅰ期 活用ガイドブックの作成・配付 (H23.6~H24.3)	第Ⅱ期(実践力養成)		第Ⅲ期
実証研究 システム・機器整備	基幹システム設計・構築 (H23.6~H25.3) 実証研究 (機器整備、他) (H23.6~24.3)	ICTを活用した指導方法の改善、活用ガイドブックの充実・改良 (H24.4~)	基幹システム運用 (H25~)	
市町等との協議・連携	市町教育委員会との協議、国・大学等外部機関との連携 (H23.4~H27.3)	県立学校における機器等の整備 (H24.4~)		
国の取組 「教育の情報化ビジョン」 (H23.4)		実証研究 (課題抽出・分析、改善検討) (H24.4~H27.3)		
		市町立学校における機器等の整備促進 (H24.4~H27.3)		
		総務省 フューチャースクール事業 (ICT利活用教育を進める上での技術面を中心とした課題抽出)		
		文部科学省 学びのイノベーション事業 (学習者用端末及びデジタル教科書を用いた指導法の研究)		

(備考)上表は、8. 人材育成 ④先進的なICT利活用教育の推進 の工程表。

3 平成24年度、佐賀県教育の基本方針

4

～組織改編に伴う 6つの柱と18の主な取組～

I 確かな学力を育む教育の推進

II 豊かな心を育む教育の推進

III 健やかな体を育む教育の推進

IV 時代のニーズに対応した教育の推進

①ICT利活用教育の推進

②グローバル化に対応した教育の推進

③県立高校再編整備の推進

④特別支援教育の充実

V 教育活動を支える環境の整備

IV 文化財の保護

本日の
テーマ



先進的ICT利活用教育推進事業

目的

教育現場におけるICT機器等の整備と教育情報システムの構築及び人材育成に一体的に取り組むことにより、先進的なICT利活用教育を推進し、児童生徒の学力向上につなげていく。

事業内容

ICT機器の整備

電子黒板及び学習者用端末等の整備

- ・ 実証研究校：県立高校 5校
- ・ 教育実践校：県立中学校 2校、特別支援学校 全8校

新たな教育情報システムの構築

学習管理、教材管理、校務管理(支援)機能の統合

- ・ H25年度運用開始予定

人材育成

教職員研修

- ・ スキルアップ研修、推進リーダー養成研修、ガイドブック充実

< 継続の取組 > 実証研究(県立武雄青陵中学校)



4 時代が求める教育とは

子どもは未来からの留学生 !!
あなたは、5年後、10年後の社会を見据えた教育が実践できていますか？

時代が求める人材

子どもの成長
(時代の流れ)

現在の姿

求められる“学力”とは、
・教科そのものを理解する力
・知識の獲得の仕方（学ぶ力）を身に付けること

家庭、学校、地域

指導者(教師)が果たすべき役割とは...



[求められる時代に対応した教育の実現]

7

(社会構造の変化と教育改革の流れ)

○1872年(明治5年)

学制公布

⇒近代日本の教育制度の確立

○1947年(昭和22年)

教育基本法公布

⇒戦後日本教育への移行

○2006年(平成18年)

改正教育基本法公布

⇒平成の教育改革

21世紀型教育への移行

高度情報化、

グローバル化社会への対応



[近年の国における主な情報化推進の動き]

8

e-Japan戦略
(平成13年1月)

5年以内に世界最先端のIT国家となることを目指す。
ITを指導する人材の育成、IT技術者・研究者の育成 他

IT新改革戦略
(平成18年1月)

世界に先駆けて平成22年度にはITによる改革を完成
・文部科学省「スクールニューディール政策」(平成21年6月)

教育の情報化ビジョン(新成長戦略) (平成23年4月)

- ・総務省「フューチャースクール推進事業」(平成22年度～)
- ・文部科学省「学びのイノベーション事業」(平成23年度～)

<めざす姿>

21世紀にふさわしい学校教育の実現

⇒平成32年(2020年)までに実施すべき成果目標!!

* 全普通教室に電子黒板を配備(普及率100%)

* 児童生徒全員に1人1台の情報端末(")

[今、求められる教育の情報化]

9

21世紀を生きる子どもたちに求められる力は・・・「生きる力」と「情報活用能力」

教育の情報化とは、

- ・ 学校教育全般でのICT利活用の促進
- ・ ハードからソフトへの転換

◇授業の情報化:

「学び」の場における情報通信技術の活用情報通信技術を効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現

情報教育の充実：子どもたちの情報活用能力の育成

◇学校の情報化:

校務の情報化情報通信技術を活用した教職員の情報共有によるきめ細かな指導、校務負担の軽減



(参考) これまでの“情報”教育は、

- ・ コンピュータ教室の設置（設備の充実）
- ・ IT活用力の養成（技術の習得）

- 新たな教育の実践には教育工学の視点が不可欠。
そして、その根底にあるものが「カリキュラム・マネジメント」。
- カリキュラムを、「教育課程」「年間指導計画」「単元・授業」レベルでとらえ、教える側の視点だけでなく、学習者の視点から、教育内容の再構築(充実・改善)を行っていくという動的な姿勢が必要。
- そのためには、絶えず、成果と課題を明らかにするための評価(PDCAサイクルの確立)が重要である。

Step1) ICT 利活用場面をイメージする。

Step2) 学校のICT 環境をチェックしておく。

Step3) 学習目標を設定する。

- (1) 何を学ばせたいか。
どんな力をつけさせたいか。
- (2) なぜそれを学ばせたいのか、重要なのか。
- (3) 目標を達成するため、ICT をどのように活用するか。

Step4) ICT 利活用場面を考え、実施する。

- ・ 「ICTを使うこと」が目的ではない。
- ・ 授業のどの場面でICT を活用するか。



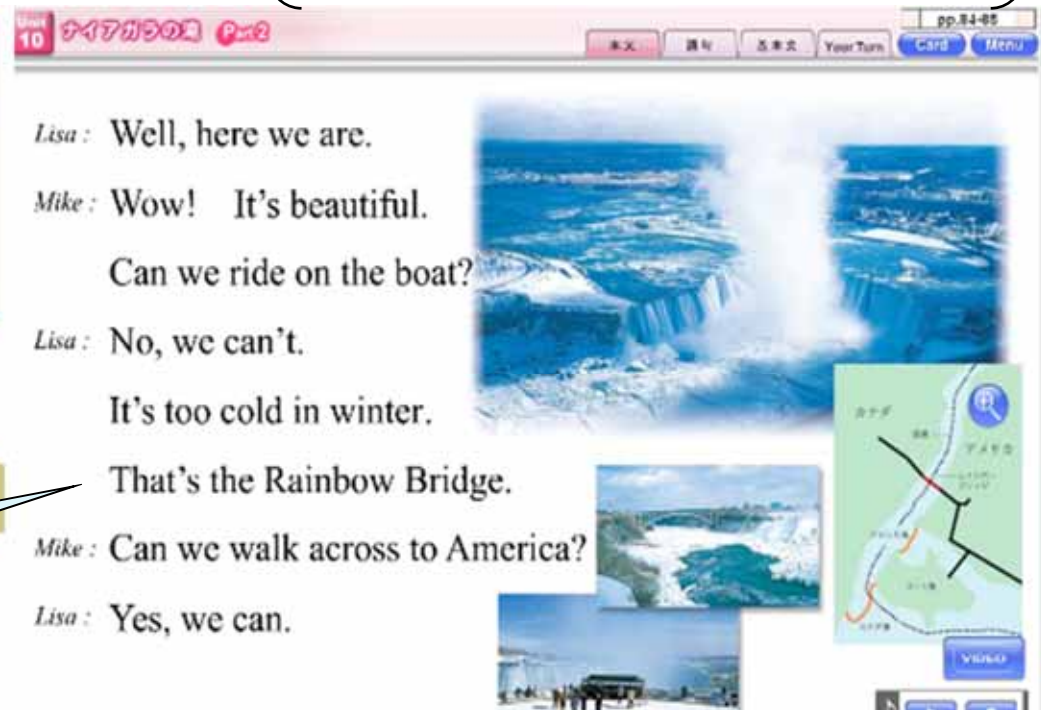
[教授法の改善（電子黒板の活用）]

これまでの文字情報に加え、映像表示や音声表現も可能となることから、より臨場感の高い授業の実施が可能となる。

それにより、学習者は、

- ・指導内容の視覚的な把握が可能となり、
- ・授業への参加意欲が向上し、
- ・理解が促進する。(⇒学ぶ感動の進化)

文部科学省のホームページ「教育の情報化に関する手引」検討案 第8章 学校におけるICT環境整備より



演示を前提としたデジタル教材の活用により、例えば、文章のクリックでネイティブの発音が出るなど、その場で、TT的な活用も可能！

(引用)東京書籍指導用デジタル教科書紹介HP

[学習スタイルの変化（学習者用端末の活用）]

12

<期待される効果>

- 学習者用デジタルコンテンツ(※)の活用により、学習者は、自分の疑問点について調べたり、理解に応じた進度で学ぶなど、自らの理解やつまずきの状況に対応した学びを進めることが可能となる。

(※参考)学習者用デジタル教科書とは、

これまでの教科書の機能に加えて

- 1) 電子計算機・電子百科事典
 - 2) 映像・音楽の表現ツール
 - 3) インターネットの活用(コミュニケーションツール)
- を可能とするもの。

(個別学習の充実)



- さらに、教室内の授業や学校外・海外との交流授業において、子ども同士による意見交換や発表などによりお互いを高め合う学びを進めることなども可能となる。

(協働学習)

文部科学省「学校教育の情報化に関する懇談会」(デジタル教科書・教材、情報端末WG検討のまとめ)からの引用



校務管理(支援)システム



指導者用の電子管理システム

- 学籍情報管理
- 出欠管理
- 学校保健情報管理
- メール配信 他

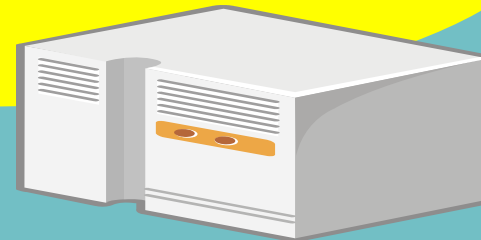
LMS

学習管理システム



LCMS

学習教材管理システム



学習者と指導者の相互通信のベースとなる教育管理システム

- 学習者の登録
- 学習の進捗管理、成績管理
- 教材・学習コンテンツの制作・登録、配信
- 学習状況確認、履歴管理
- eラーニング、遠隔学習支援 他



(H25.4稼働)

(最後に)教育は人なり。鍵となる人材育成 !!

<各学校へのお願い>

各学校のICT機器等の整備状況と県の事業計画を踏まえ、全職員を対象に、それぞれに応じたより効果の高い指導法の構築と実践力の養成のための研修を実施し、その成果を(本事業の実施目的である)児童生徒の学力向上につなげる。

1 組織体制の明確化

校長は、組織マネジメントの観点から、「推進リーダー」として適任者を任命し、組織としての推進体制を構築する。

2 推進リーダーの位置づけ

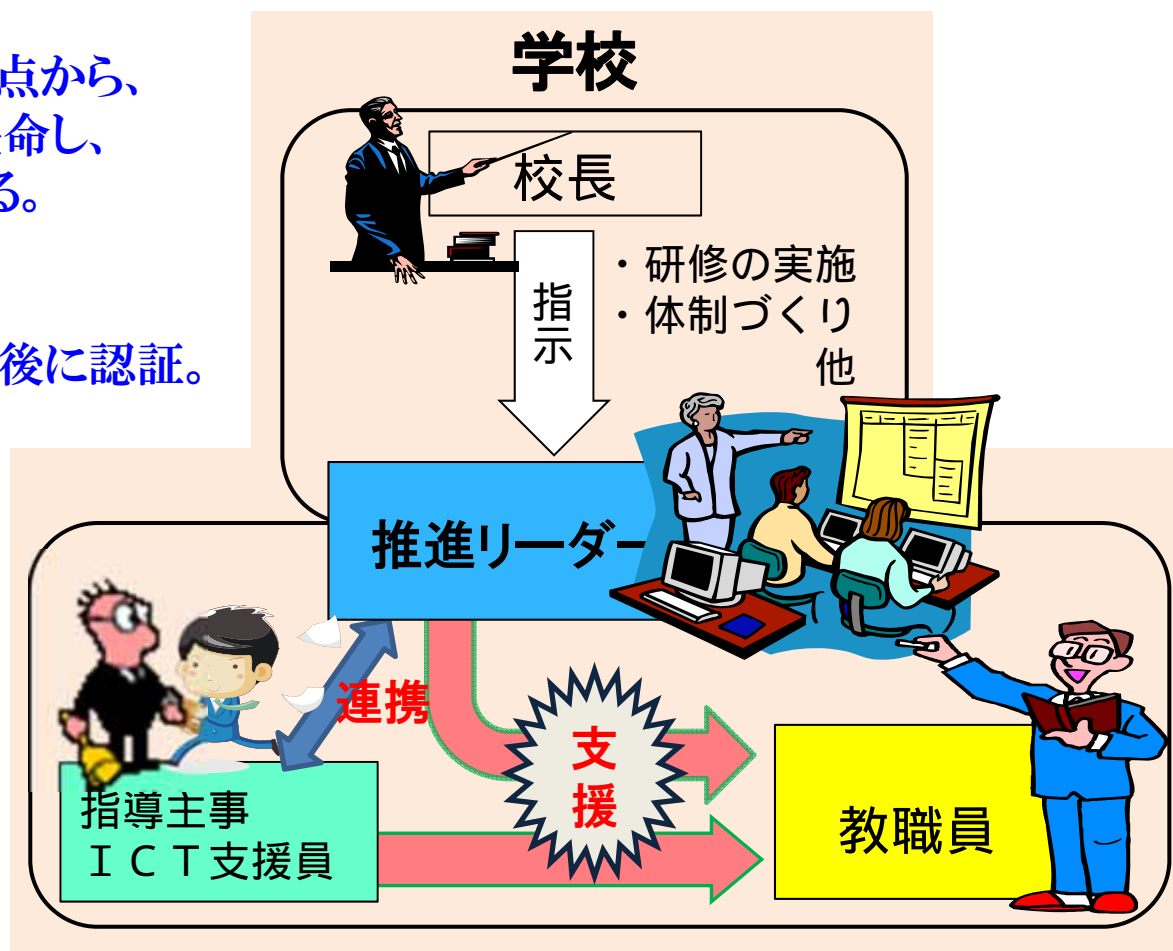
県が実施する専門研修の受講後に認証。

ICT支援員の派遣

平成24年度は、主に、校内研修の補助要員として、ICT支援員を派遣する。

<支援員の業務>

- 教材の作成支援
- 機器操作等の助言
- 軽微な機器トラブル対応



説明は以上ですが、25年度からの本格実施に向け、再度、確認をお願いします。

①教科書選定の時期です。

“対応する教材が有ること”の確認を

②学習者用端末は、“生徒の立場”に
立った機能比較を
行ってください。

(教育委員会事務局)

